

全国 8 万 8 千人の津波・地震発生時の行動・意識を分析

「東日本大震災」調査結果

2011 年 4 月 28 日

株式会社 ウェザーニューズ

調査概要

◆調査目的

3月11日、日本は国内観測史上最大の震災に見舞われました。当社では、「ありのままの今を把握し、災害の記憶を記録する。私達が今、できる事。」を言葉に、東日本大震災の実態を把握し、次の災害を最小限にするため、全国のサポーターの協力のもと、本災害の記録を多く集めてきました。本日発表する「東日本大震災調査」は、地震が起きた際に各エリアの人がどのような行動を取っていたのか、その真実を明らかにし、今後の当社や各防災機関が展開する減災活動の発展及び、個人が展開する自助・共助活動の輪を拡げる切っ掛けとしていく事を目的としています。

◆調査期間

2011年3月14日（月）～4月10日（日）

◆調査人数

全国合計：88,604人（被災地：9,316人）

※被災地は青森・岩手・宮城・福島・茨城県の海岸近くにいた人を対象

◆調査方法

当社で展開するインターネットサイト及び携帯サイト「ウェザーニュース」、スマートフォンアプリケーション「ウェザーニュースタッチ」の利用者を対象に調査を実施

◆ 調査項目・結果分析

1. 地震が発生してから津波の情報を知るまでにかかった時間
 - 地震発生から津波の情報を知るまでにかかった時間の全国平均は 16.6 分
 - 被災地で津波の情報を知るまでにかかった時間は平均 16.4 分
2. 津波警報を最初に入手したメディア
 - 震度 6 弱までは“テレビ”、震度 6 強以上は“ラジオ”が急増
 - 被災地の青森県・岩手県・宮城県では“ラジオ”が最も多い結果に
3. 大津波警報・津波警報の発表を受けての行動
 - 津波の心配がされる中、海岸近くにいた 45%の人が退避行動に移れず
 - 被害が大きかった被災地では、33%の人が退避行動に移れず
4. 揺れがおさまるまでの行動
 - 全国の屋内・屋外にいた人共に“とりあえず様子を見た”が最も多い結果に
 - 被災地は、屋内では“屋外に逃げた”、屋外では“とりあえず様子を見た”が最も多い結果に
5. 揺れがおさまるまでの行動に対する自己評価
 - 揺れがおさまるまでの行動、全国・被災地共に半数以上の人が“うまく出来た”
6. 災害に関する情報の入手先
 - 災害情報の入手先、全国では“テレビ”、“携帯サイト”が多い結果に
 - 被災地での情報入手先は“ラジオ”が最も多い結果に
7. 地震発生後、家族や友人と最初に連絡が取れた時間
 - 家族や友人と連絡が取れた時間の全国平均は 3 時間 15 分
 - 家族や友人と連絡が取れた時間の被災地平均は 4 時間 9 分
8. 被災時に家族や友人とコミュニケーションした内容
 - 全国結果・被災地共に“自分を含め家族の安否連絡”が最も多い結果に
9. 地震発生から 24 時間以内に個人が情報を発信した回数
 - 被災時における情報発信回数の全国平均は 16.3 回
 - 被災時における情報発信回数の被災地平均は 19.1 回
10. 困った事あるいは現在も困っている事
 - 被災時、全国の一番の悩みは“交通機関のマヒ”
 - 被災地での一番の悩みは“食料の調達”
11. 備えておかなければいけなかったと思う事
 - 全国・被災地共に、“防災グッズ／非常食の準備”が最も多い結果に
12. 避難時（緊急時）の近所の人や周りにいた方との連携への評価
 - 避難時、全国の半数以上が周辺の人と“連携が取れた”
 - 被災地では 8 割以上が周辺の人と“連携が取れた”

※結果分析の詳細は次項を参照ください

◆ 結果分析詳細

1. 地震が発生してから津波発生の情報を確認するまでの時間

<全国>

- ・地震発生から津波の情報を知るまでにかかった時間は、全国平均で 16.6 分
- ・海岸近くにいた人で津波情報を知るまでにかかった時間は、全国平均で 16.1 分

「大津波警報・津波警報・津波注意報の情報を知ったのは地震が発生した 3 月 11 日 14 時 46 分以降、何分後ですか」との質問をし、各回答の平均値を求め分析した結果、地震発生から津波の情報を知るまでにかかった時間は全国平均で 16.6 分になりました。また、海岸近くにいたとの回答をした人が津波情報を知るまでにかかった時間は、全国平均が 16.1 分で、全国平均とほぼ変わりませんでした。また、全国平均を男女別で見ると、男性の平均は 16.0 分、女性の平均は 17.1 分と、男性の方が津波の情報を知るまでにかかる時間が約 1 分短かったことがわかりました。さらに年代別に見てみると、10 代は 20.0 分、20 代は 18.5 分、30 代は 16.2 分、40 代は 15.5 分、50 代は 14.5 分、60 代以上は 13.1 分と、年齢が高くなるほど情報を入手した時間が早い結果になりました。

<被災地>

- ・被害が多く発生したエリアで津波情報を知るまでにかかった時間は平均 16.4 分

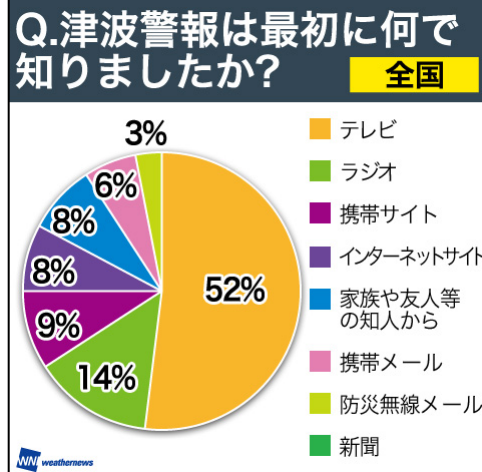
大津波警報が発表されており、被害が多く発生した 5 県（青森、岩手、宮城、福島、茨城）の海岸近くにいた人が津波情報を知るまでにかかった時間を分析した結果、平均 16.4 分となり、ほぼ全国平均と変わらない結果になりました。ただ、今回、実際の津波到達は早かったところで、地震発生から 15~20 分との見方もあり、上記の調査結果を見てみると、津波情報を知ってから逃げて間にも合わない可能性が高いことがわかります。このことから、まずは揺れたらすぐに高台や鉄筋コンクリートの建物の高い所へ避難することが第一で、さらにその行動の早さが重要になります。また、この結果を男女別で見ると、男性の平均は 15.1 分、女性の平均は 16.9 分で、男性の方が情報を入手する時間が早かったことがわかりました。年代別では、10 代が 20.6 分、20 代が 18.2 分、30 代が 15.5 分、40 代が 15.0 分、50 代が 14.5 分、60 代以上が 14.3 分となり、全国結果と同様に、年齢が高くなるほど、情報を入手した時間が早い結果になりました。さらに、被災地の県別に見てみると、青森県が 16.2 分、岩手県が 13.4 分、宮城県が 15.1 分、福島県が 15.9 分、茨城県が 18.6 分となり、岩手県が他県に比べて比較的早い傾向にありました。

2. 津波情報を最初に入手したメディア

<全国>

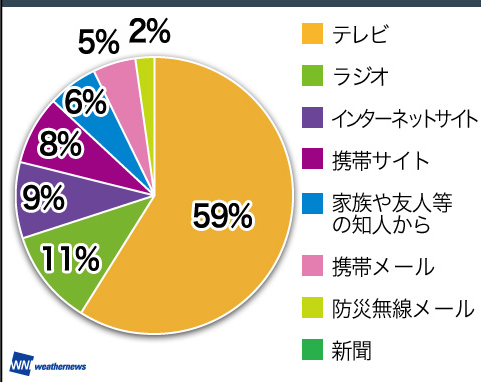
- ・津波情報の入手先は、震度 6 弱までは“テレビ”、震度 6 強以上は“ラジオ”が急増

「津波警報は最初に何で知りましたか」との質問をし、“テレビ”、“インターネットサイト”、“携帯サイト”、“携帯メール”、“防災無線”、“ラジオ”、“新聞”、“家族や友人等の知人から”から選択してもらいました。その結果、テレビが 52%と最も多く、続いて“ラジオ”が 14%、“携帯サイト”が 9%、“携帯メール”が 6%と、携帯電話を活用した回答が 15%でした。この結果を男女別に見てみると、女性の方が“テレビ”の利用率が高く、男性の方が携帯電話、インターネットサイトの利用率が高い結果になりました。また、震度別に見てみると、震度 6 弱から震度が大きくなるにつれ、“ラジ

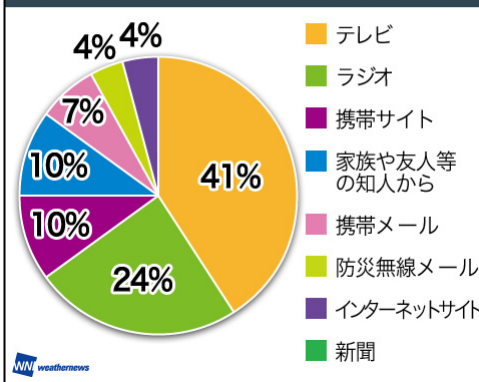


オ”の利用が増え、震度6強以上では約3割の人が活用していた事がわかりました。

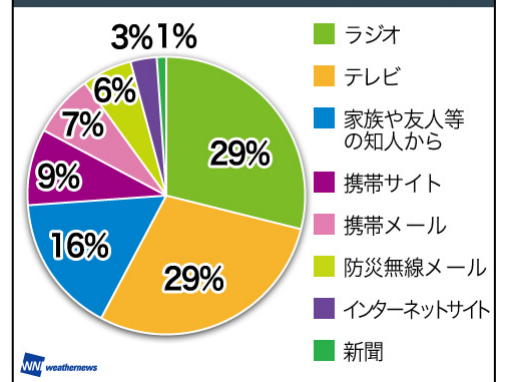
Q.津波警報は最初に何で知りましたか？ 全国(震度5)



Q.津波警報は最初に何で知りましたか？ 全国(震度6)



Q.津波警報は最初に何で知りましたか？ 全国(震度7)

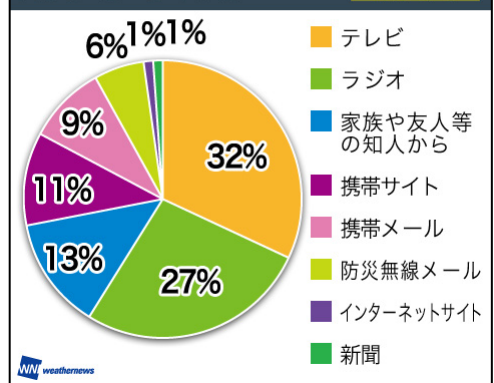


<被災地>

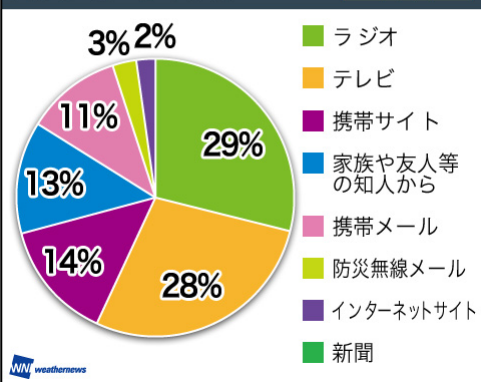
・津波情報の入手先、被災地の青森県・岩手県・宮城県では“ラジオ”が最も多い結果に

被災地では、“テレビ”が32%、“ラジオ”が27%、“携帯サイト”が11%、“携帯メール”が9%と、携帯電話を活用した回答が20%で、全国平均よりも“テレビ”との回答が減り、他の項目が増える傾向にありました。特に青森県、岩手県、宮城県では、“テレビ”よりも“ラジオ”で情報を入手した人の方が高く、岩手県と宮城県では35%を超えました。テレビや携帯電話が普及している時代においても、“ラジオ”は災害時の情報ツールとして重要なアイテムであることが再確認できました。この結果を男女別に見てみると、ほとんどの項目で大きな差は見られなく、男性の方が携帯電話の利用率が高い結果になりました。さらに年代別に見てみると、年齢が高くなるほど、“携帯メール”の利用率が高く、60代以上が最も高い結果になりました。一方、“携帯サイト”の利用率は年齢が低いほど利用率が高くなっており、携帯電話の利用の仕方に違いが見られました。

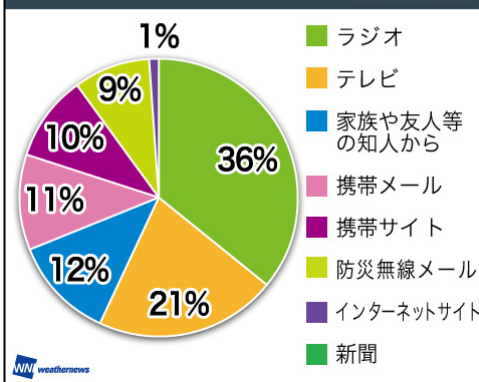
Q.津波警報は最初に何で知りましたか？ 被災地



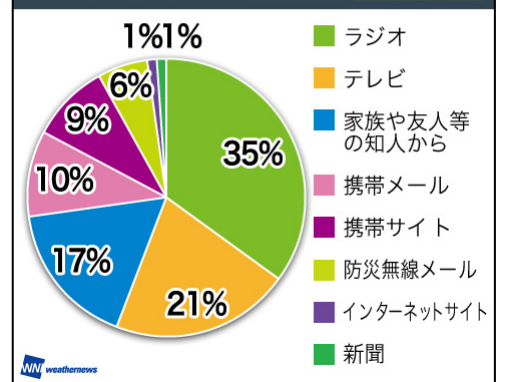
Q.津波警報は最初に何で知りましたか？ 青森

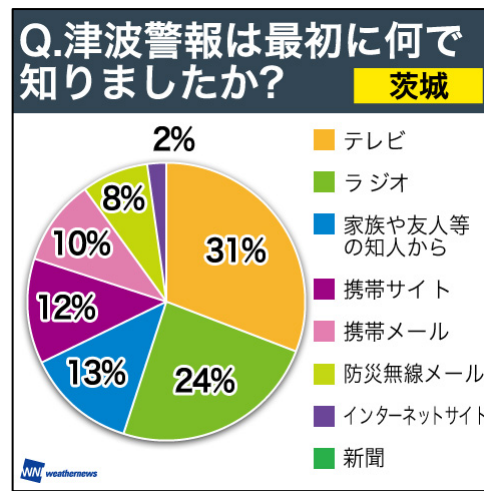
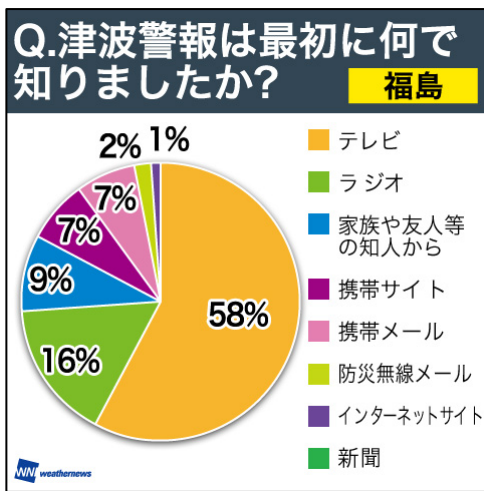


Q.津波警報は最初に何で知りましたか？ 岩手



Q.津波警報は最初に何で知りましたか？ 宮城



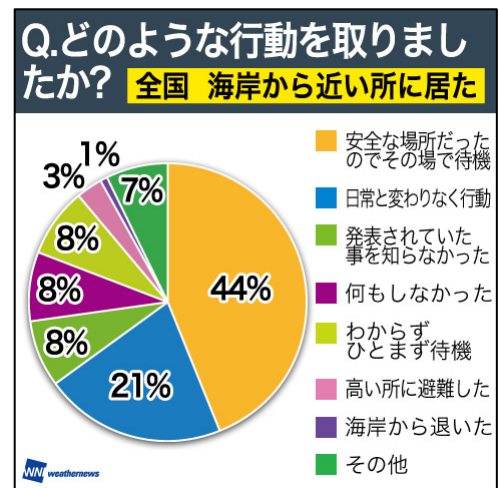


3. 大津波警報・津波警報の発表を受けての行動

<全国>

- ・津波の心配がされる中、海岸近くにいた45%の人が退避行動に移れず
- ・津波情報、全国の8%が“発表されていた事を知らなかった”

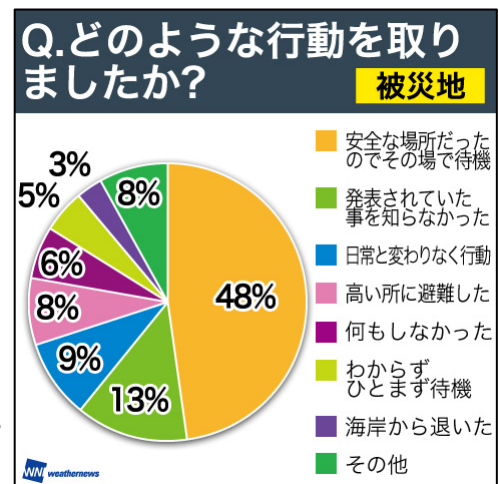
全国の海岸から近い所にいた人に対して、「今回、大津波警報や津波警報が発表されましたが、どのような行動を取りましたか」との質問をしました。その結果、“安全な場所だったのでその場で待機”が最も多く44%、続いて“日常と変わりなく行動”が21%、“何もしなかった”と“発表されていた事を知らなかった”、“わからずひとまず待機”が8%、“高い所に避難した”が3%、“海岸から退いた”が1%、“その他”が7%となりました。“日常と変わりなく行動”または、“何もしなかった”、“発表されていた事を知らなかった”、“わからずひとまず待機”と回答した人を合わせると45%になり、約半数の人が海の近くにおいても退避行動に移ることが出来ていなかった可能性があることがわかりました。また、甚大な被害をもたらした今回の津波に対し、“発表されている事を知らなかった”との回答が8%にのぼり、情報伝達の課題が見える結果になりました。



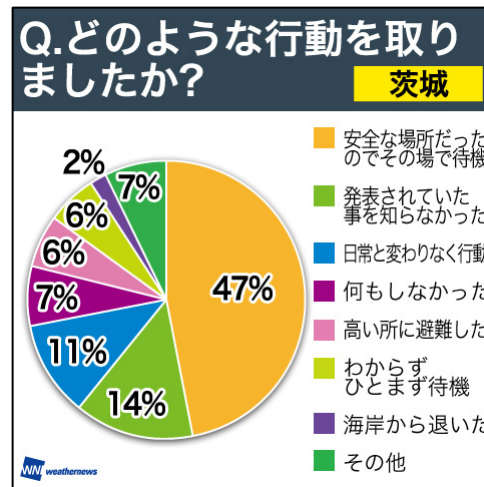
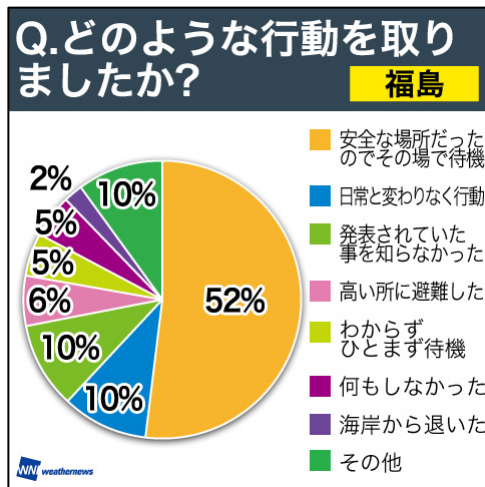
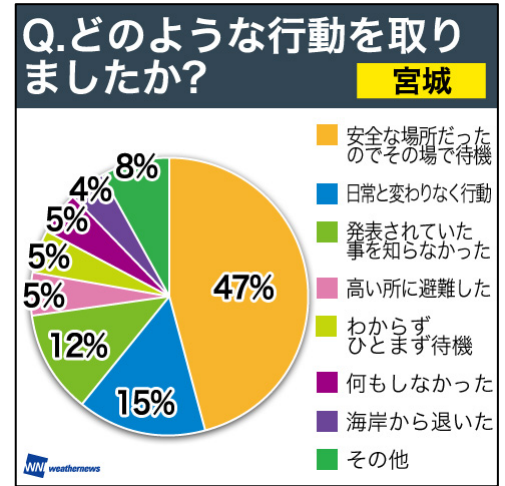
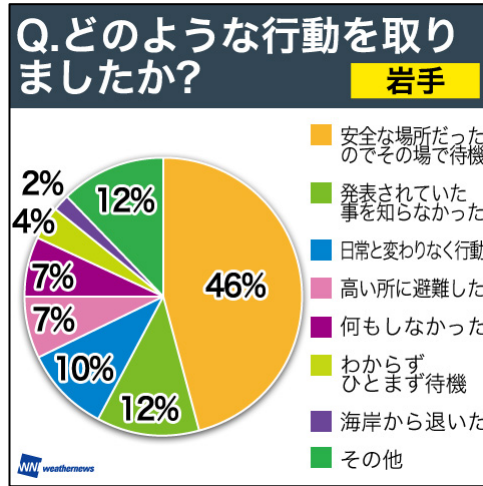
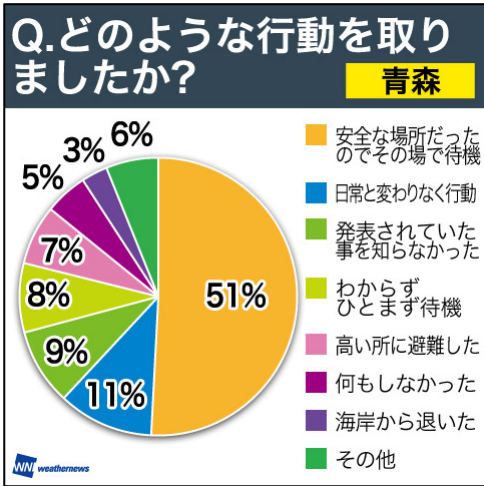
<被災地>

- ・津波による被害が多く発生したエリアでは、33%の人が退避行動に移れず
- 津波情報、被災地の13%が“発表されていた事を知らなかった”

海の近くで大津波警報が発表されていた被災地エリアにおいては、“安全な場所だったのでその場で待機”が最も多く48%、続いて、“発表されていた事を知らなかった”が13%、“日常と変わりなく行動”が9%、“高い所に避難した”が8%、“何もしなかった”が6%、“わからずひとまず待機”が5%、“海岸から退いた”が3%、“その他”が8%となりました。“日常と変わりなく行動”または、“何もしなかった”、“発表されていた事を知らなかった”、“わからずひとまず待機”と回答した人を合わせると33%になり、被災地でも3人に1人は退避行動に移れていなかったことがわかりました。また、被災地では13%の人が“発表されていた事を知らなかった”



と回答しており、全国結果よりもさらに高い割合になりました。停電や通信状況が悪くなることが想定される被災地においても、情報伝達手段について課題が見える結果になりました。この結果を男女別に見てみると、男性で退避行動に移れなかった割合が28%に対し、女性は35%と高い傾向にあり、特に女性は“発表されている事に気づかなかった”との回答が16%と、男性の6%に対して高い結果になりました。“発表されていた事を知らなかった”との結果を県別に見ると、茨城県は14%と、最も高く、岩手県、宮城県、福島県でも1割を超えました。

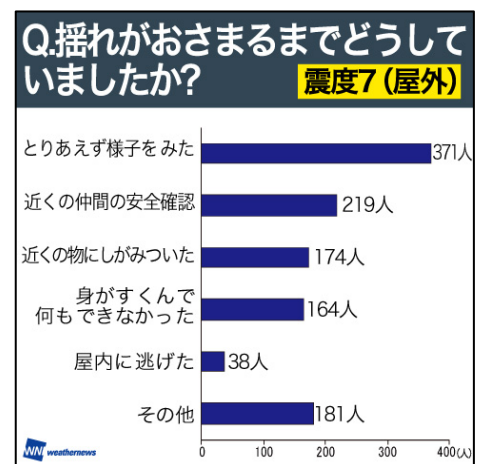
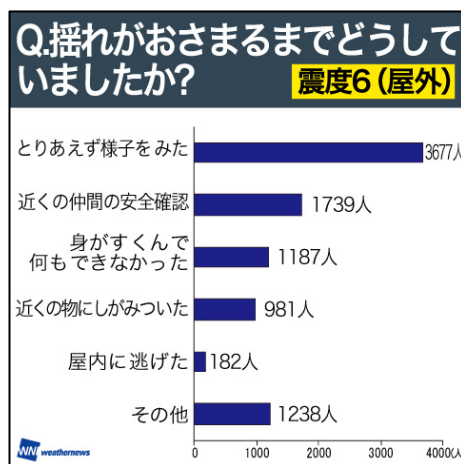
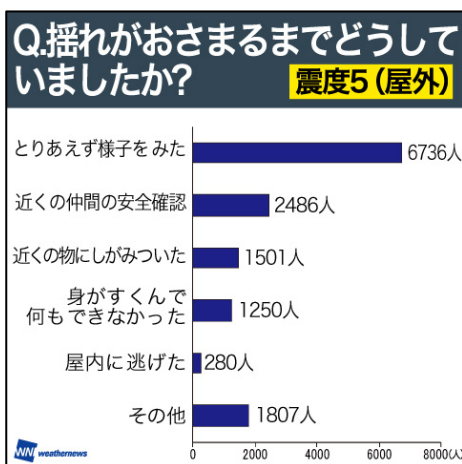
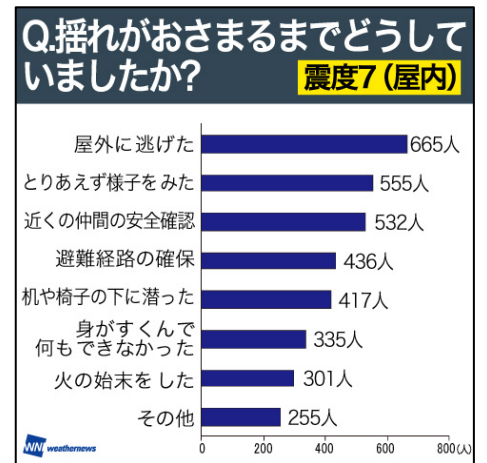
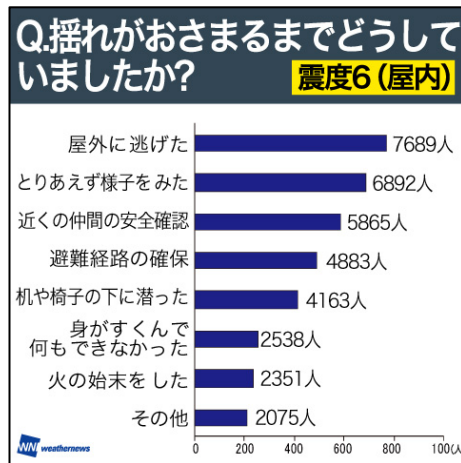
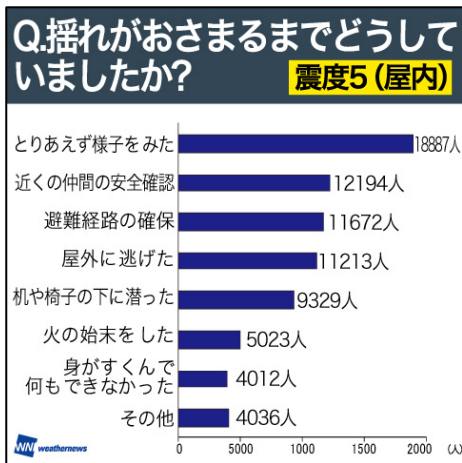
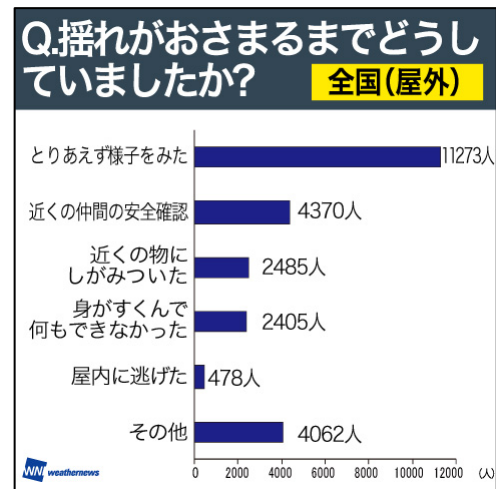
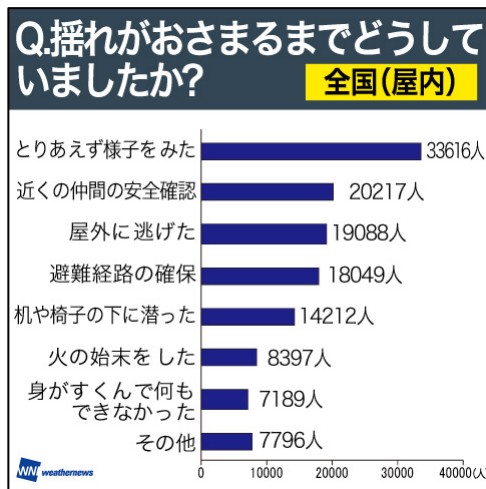


4. 揺れがおさまるまでの行動

<全国>

・揺れがおさまるまで、屋内・屋外にいた人共に“とりあえず様子をみた”が最も多い結果に
 「揺れがおさまるまで、どうしていましたか」（複数回答可）との質問をし、屋内にいた人と屋外にいた人それぞれの項目に対して回答してもらいました。その結果、屋内にいた人は、“とりあえず様子をみた”が33,616人と最も多く、続いて“近くの仲間の安全確認”が20,217人でした。“避難経路の確保”との回答は震度4以上から増加して1割を超え、避難訓練で実施する“机や椅子の下に潜った”との回答は震度5弱以上から増加して1割を超えました。屋外にいた人の回答を見てみると、“とりあえず様子をみた”との回答が最も多く11,273人で、震度7でも3割以上の人の様子を見ていたようです。また、次に多かった“近くの仲間の安

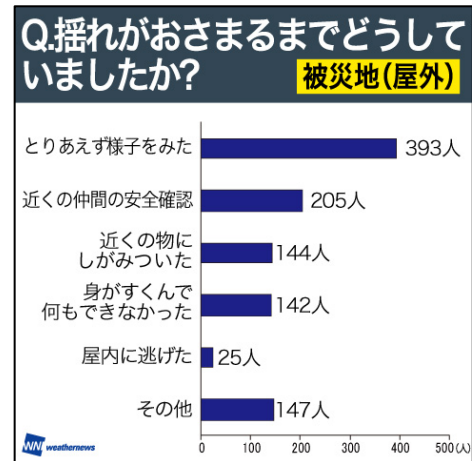
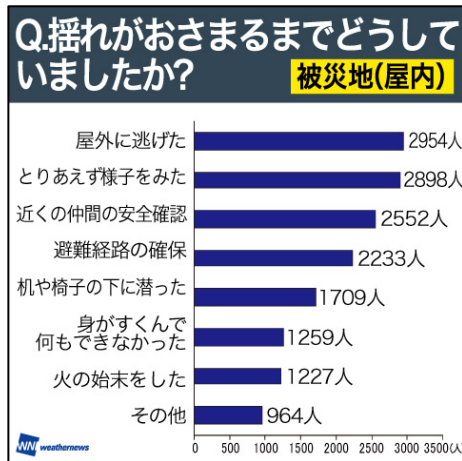
全確認”は4,370人で、5弱以上から増える傾向にあり、“近くの物にしがみついた”との回答は震度5弱以上から増えて1割を超えました。さらに、屋内に比べ、屋外にいた人の方が、“身がすくんで何も出来なかった”との割合が多い傾向にありました。



<被災地>

- ・屋内にいた人は“屋外に逃げた”、屋外では“とりあえず様子を見た”が最も多い結果に

被災地の揺れがおさまるまでの行動を見たところ、屋内にいた人は“屋外に逃げた”が最も多く 2,954 人、続いて“とりあえず様子を見た”が 2,898 人、“近くの仲間の安全確認”が 2,552 人となり、全国結果と違いが見られる結果になりました。この結果を男女別に見てみると、屋内ではほとんど違いが見られず、男性の方が“とりあえず様子を見た”が、女性の方が“身がすくんで何もできなかった”が若干多い傾向にありました。年代別に見てみると、60 代以上は“身がすくんで何もできなかった”との回答が、10 代は“机や椅子の下に潜った”との回答が他の年代に比べて圧倒的に多い結果になりました。また、屋外では、“とりあえず様子を見た”が最も多く、393 人、続いて“近くの仲間の安全確認”が 205 人となりました。男女別では、“とりあえず様子を見た”との回答が、女性に比べて男性の方が 15% も多く、女性は“近くの物しがついた”や“身がすくんで何もできなかった”との回答が多くなりました。年代別では、10 代と 60 代以上は他の年代に比べて“近くの仲間の安全確認”の割合が高く、60 代以上は“近くの物しがついた”割合も高い傾向にありました。

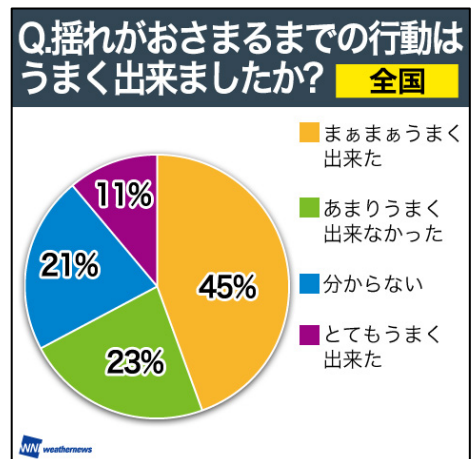


5. 揺れがおさまるまでの行動に対する自己評価

<全国>

- ・揺れがおさまるまでの行動、半数以上の人“うまく出来た”

揺れがおさまるまでの行動を振り返ってもらい、「揺れがおさまるまでの行動はうまく出来ましたか」との質問をしました。その結果、“まあまあうまく出来た”が 45%、“あまりうまく出来なかった”が 23%、“分からない”が 21%、“とてもうまく出来た”が 11% となり、“とてもうまく出来た”と“まあまあうまく出来た”を合わせると、半数以上が自らの行動に対し、“うまく出来た”と評価している事がわかりました。“うまく出来た”との評価について男女別に見てみると、女性が 50% に対して男性が 63% と、男性の方が自らの行動への評価が高いことがわかりました。さらに、年代別に見てみると、20 代以上から年齢が高くなるほど自らの行動への評価が高く、50 代以上は 64% の人が、60 代以上は 66% の人が“とてもうまく出来た”または“まあまあうまく出来た”



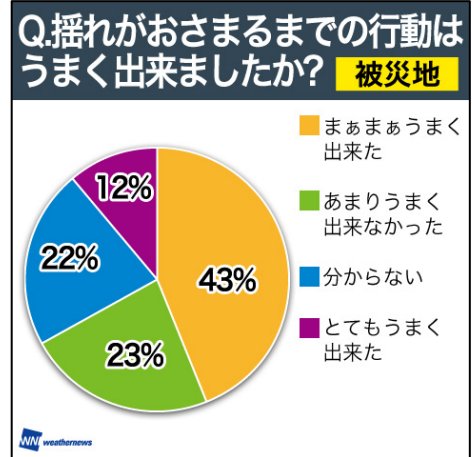
“とてもうまく出来た”または“まあまあうまく出来た”

く出来た”と回答しており、6割を超える結果となりました。一方、10代に注目してみると、“とてもうまく出来た”または“まあまあうまく出来た”が60%と高い結果になり、学校で普段から実施される避難訓練の成果が表れたのかもしれませんが。

<被災地>

・揺れがおさまるまでの行動、揺れが大きい被災地でも半数以上が“うまく出来た”

地震の揺れが大きかった被災地では、“まあまあうまく出来た”が43%、“あまりうまく出来なかった”が23%、“分からない”が22%となり、“とてもうまく出来た”が12%、“とてもうまく出来た”と“まあまあうまく出来た”を合わせると、全国平均と同じく半数以上の人自らの行動に対し、“うまく出来た”と評価している事がわかりました。県別で見ると、青森、岩手、宮城県では約6割の人が“うまく出来た”と評価しており、揺れが大きいにも関わらず、落ち着いて行動することが出来たようです。“うまく出来た”との評価について男女別に見てみると、女性が51%に対し、男性の63%と、全国結果と同様に、男性の方が1割以上も自らの行動への評価が高いことがわかりました。さらに年代別に見てみると、10代、50代、60代以上は“うまく出来た”との評価が6割を超える高い結果となりました。20代は、他の年代に比べて“あまりうまく出来なかった”との回答が多く、4人に1人以上という結果となりました。

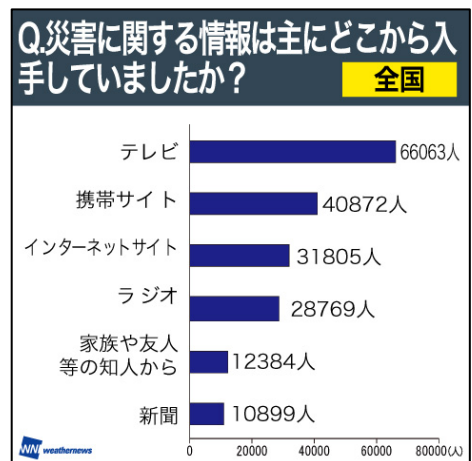


6. 災害に関する情報の入手先

<全国>

・災害情報の入手先は“テレビ”、“携帯サイト”が多い結果に

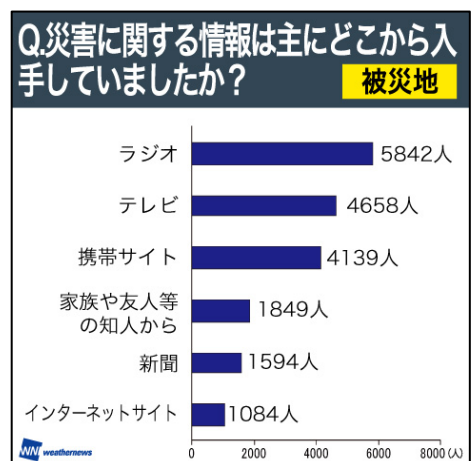
災害情報の入手先について調査するため、「災害に関する情報は主にどこから入手していましたか」（複数回答可）との質問をしました。その結果、“テレビ”が66,063人で最も多く、続いて“携帯サイト”が40,872人でした。震度別に見てみると、震度が大きくなるにつれて“ラジオ”の利用率が高くなり、6強以上では、“テレビ”よりも多い結果になりました。また、震度が大きくなるにつれて、情報入手先が多方面に広がる傾向にありました。



<被災地>

・被災地での情報入手先は“ラジオ”が最も多い結果に

被災地での災害情報の入手先は、“ラジオ”が5,842人と最も高く、続いて“テレビ”が4,658人、“携帯サイト”が4,139人となり、全国結果と情報入手先に違いが見られる結果になりました。県別で見ると、青森、岩手、宮城、茨城県で“ラジオ”が最も多くなり、被害が大きいところほど電気が通らず、また、通信状況が悪いため“ラジオ”の利用率が高まり、重要なアイテムとなったようです。



7. 地震発生後、最初に家族や友人との連絡をした手段とその時間について

<全国>

- ・ 家族や友人と連絡が取れた時間の全国平均は 3 時間 15 分
- ・ “公衆電話” の全国平均は 3 時間 49 分
- ・ “固定電話” の全国平均は 3 時間 29 分
- ・ “携帯電話” の全国平均は 3 時間 40 分
- ・ “携帯メール” の全国平均は 3 時間 4 分
- ・ “インターネットメール” の全国平均は 3 時間 5 分
- ・ “災害用伝言板” の全国平均は 3 時間 38 分
- ・ “Twitter や mixi、Facebook 等のサイト” の全国平均は 1 時間 59 分

「地震が発生した 3 月 11 日 14 時 46 分以降、離れた家族や友人と最初に連絡が取れたのはどのくらい後ですか」との質問をし、各回答の平均値を求め分析した結果、全国平均は 3 時間 15 分になりました。また、連絡手段を“公衆電話”、“固定電話”、“携帯電話”、“携帯メール”、“インターネットメール”、“災害用伝言板”、“Twitter や mixi、Facebook 等のサイト” から選択してもらい、それぞれの通信網で最初に連絡が取れるまでにどれくらいの時間を有したのかを調査しました。その結果、“公衆電話”が全国平均で 3 時間 49 分、“固定電話”が 3 時間 29 分、“携帯電話”が 3 時間 40 分、“携帯メール”が 3 時間 4 分、“インターネットメール”が 3 時間 5 分、“災害用伝言板”が 3 時間 38 分、“Twitter や mixi、Facebook 等のサイト”が 1 時間 59 分となり、個人が気軽に情報発信出来る SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）による連絡は、これまでの通信手段よりも 1 時間以上早いという結果がわかりました。今回、家族への連絡を取る手段である携帯電話や公衆電話などの通信インフラが使えなくなった中、Twitter、mixi、facebook など SNS ユーザーは、9 割以上の方が有用であったと答えています。また、今回の調査を通じて送られてきた災害エピソードを見ると、避難時においても、SNS を利用しながら、友人や知り合いなどの安否情報を始め、避難所情報や交通情報など、それぞれの減災活動に役立っている例が目立ちました。

<被災地>

- ・ 家族や友人と連絡が取れた時間の被災地平均は 4 時間 9 分
- ・ “公衆電話” の被災地平均は 5 時間 46 分
- ・ “固定電話” の被災地平均は 4 時間 35 分
- ・ “携帯電話” の被災地平均は 3 時間 35 分
- ・ “携帯メール” の被災地平均は 3 時間 11 分
- ・ “インターネットメール” の被災地平均は 4 時間 35 分
- ・ “災害用伝言板” の被災地平均は 4 時間 24 分
- ・ “Twitter や mixi、Facebook 等のサイト” の被災地平均は 2 時間 56 分

被災地において、家族や友人と連絡が取れた時間の平均は、4 時間 9 分となり、全国平均よりも約 1 時間遅い結果になりました。連絡手段別に見てみると、“公衆電話”が被災地平均で 5 時間 46 分、“固定電話”が 4 時間 35 分、“携帯電話”が 3 時間 35 分、“携帯メール”が 3 時 11 分、“インターネットメール”が 4 時間 35 分、“災害用伝言板”が 4 時間 24 分、“Twitter や mixi、Facebook 等のサイト”が 2 時間 56 分となり、被災地でも SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）による連絡が、他の連絡手段に比べて早かったことがわかりました。また、被災地の平均時間を男女別に見てみると、男性は 4 時間で、女性は 4 時間 8 分となり、男性の方がやや早い傾向にありました。年代別では、10 代が 3 時間 10 分、20 代が 4 時間 19 分、30 代が 4 時間 10 分、40 代が 3 時間 58 分、50 代が 4 時間 59 分、60 代以上が 4 時間 53 分となり、10 代が他の年代よりも 1 時間程度早く連絡が取れていたことがわかりました。さらに、被災地でも家族への連絡を取る手段である携帯電話や公衆電話などの通信インフラが使えなくなった中、Twitter、mixi、facebook など SNS ユーザーは、約 7 割の人が有用であったと答えています。

被災地における家族や友人と最初に連絡が取れた時間（連絡手段別）

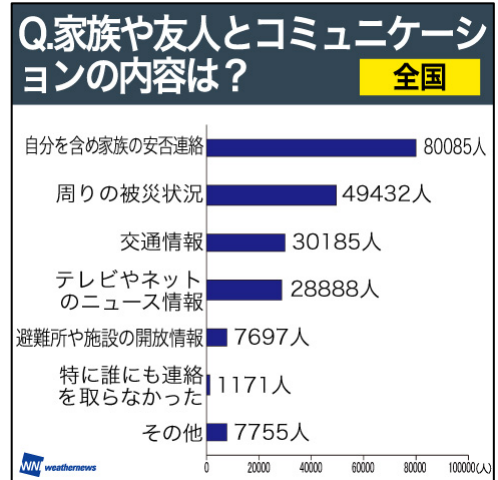
	被災地 平均	青森	岩手	宮城	福島	茨城
公衆電話	5 時間 46 分	6 時間 2 分	6 時間 23 分	7 時間 13 分	5 時間 40 分	4 時間 50 分
固定電話	4 時間 35 分	4 時間 28 分	4 時間 10 分	3 時間 59 分	4 時間 58 分	4 時間 24 分
携帯電話	3 時間 35 分	3 時間 9 分	3 時間 1 分	3 時間 19 分	4 時間 25 分	3 時間 34 分
携帯メール	3 時間 11 分	2 時間 55 分	2 時間 49 分	3 時間 8 分	3 時間 28 分	3 時間 13 分
インターネットメール	4 時間 35 分	7 時間 36 分	3 時間 15 分	2 時間 43 分	5 時間 55 分	4 時間 44 分
災害用伝言板	4 時間 24 分	5 時間 44 分	5 時間 24 分	4 時間 7 分	4 時間 47 分	3 時間 54 分
Twitter や mixi、Facebook 等のサイト	2 時間 56 分	2 時間 43 分	3 時間 12 分	3 時間 1 分	3 時間 59 分	2 時間 11 分
平均時間	4 時間 9 分	4 時間 40 分	4 時間 2 分	3 時間 56 分	4 時間 44 分	3 時間 50 分

8. 9. 被災時における家族や友人とのコミュニケーション内容

<全国>

- ・被災時における情報発信回数の全国平均は 16.3 回
- ・SNS で連絡した回数は、他の通信手段より多く 20.4 回

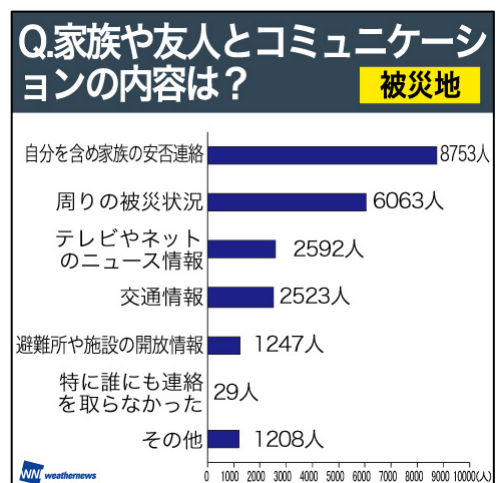
被災時のコミュニケーション内容について調査するため、「今回の被災を通じ、家族や友人とコミュニケーションした内容はどんなものでしたか」（複数回答可）との質問をしました。その結果、“自分を含め家族の安否連絡”が最も多く 80,085 人、続いて“周りの被災状況”が 49,432 人で、安否の確認、周りの被災状況をコミュニケーションしたとの回答の割合が多い傾向がありました。また、これらの情報発信の回数を調査するため、「発生から 24 時間、上記の情報発信を合計で何回くらい行いましたか」との質問をし、“0~2 回”、“3~5 回”、“6~9 回”、“10~20 回未満”、“20~30 回未満”、“30~50 回未満”、“50 回以上”から選択してもらいました。その結果、全国平均は 16.3 回、震度 5 強以上の平均は 19.9 回となり、地震の揺れが大きいところほど、情報の発信回数が多い傾向にありました。Twitter、mixi、facebook などの SNS を利用した人の平均は 20.4 回で、他の通信手段より多くの情報を発信していたこともわかりました。SNS を利用した情報発信は、今回の調査でどの通信手段よりも早かったことがわかっており、発信する回数も他の手段に比べて多くなったのかもしれない。



<被災地>

- ・被災時における情報発信回数の被災地平均は 19.1 回
- ・SNS で連絡した回数は、他の通信手段より多く 21.4 回

被災地での家族や友人とコミュニケーションした内容は、“自分を含め家族の安否連絡”が最も多く 8,753 人、続いて“周りの被災状況”が 6,063 人となり、全国結果とコミュニケーション内容は同様、安否の確認、周りの被災状況をコミュニケーションしたとの回答の



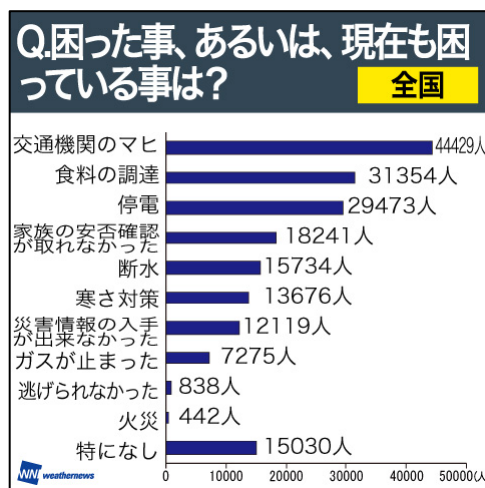
割合が多い傾向がありました。また、これらの情報発信の回数を見てみると、被災地の平均回数は19.1回になり、全国平均よりも約3回多い結果になりました。また、この結果を男女別に見てみると、男性の平均は17.9回、女性の平均は19.6回となり、男性よりも女性の方が情報発信の数が多かった事がわかりました。また、Twitter、mixi、facebookなどのSNSを利用した人の平均は21.4回で、全国平均と同様、他の通信手段より多くの情報を発信していたこともわかりました。

10. 困っている事・現在も困っている事

<全国>

・被災時での一番の悩みは“交通機関のマヒ”

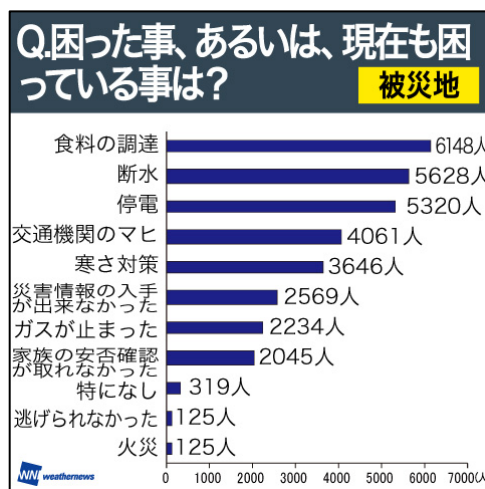
被災時の悩みを調査するため、「困った事、あるいは、現在も困っている事は何ですか」（複数回答可）との質問をしました。その結果、“交通機関のマヒ”が最も多く44,429人、続いて“食料の調達”が31,354人、“停電”が29,473人でした。この結果を震度別に見てみると、震度3までは“特になし”が圧倒的に多かったものの、震度4以上から悩みことが急に増える傾向にありました。さらに、震度6強以上は、“交通機関のマヒ”よりも“食料の調達”や“停電”、“断水”と回答する人のほうが多く、ライフラインへの影響に悩んでいる人が目立ちました。



<被災地>

・被災地での一番の悩みは“食料の調達”

被災地における悩み事を調査したところ、最も多かったが“食料の調達”で6,148人、続いて“断水”が5,628人、“停電”が5,320人となり、全国結果との違いが見られる結果になりました。被災地では、食料入手やライフラインの復旧の遅れが多くの方を悩ませたようです。この結果を男女別に見てみると、男性の方が“交通機関のマヒ”と回答する割合が高い傾向にあまりました。また、年代別に見てみると、20~40代は、他の年代に比べて“交通機関のマヒ”との回答が多くなりました。

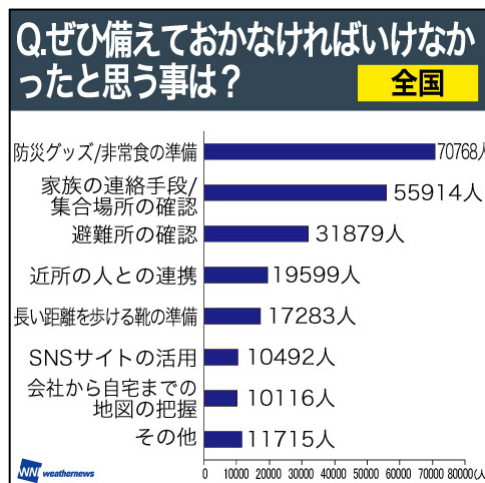


11. 備えておかなければいけなかったと思う事

<全国>

・日ごろの備えておくべきものは“防災グッズ/非常食の準備”が最も多い結果に

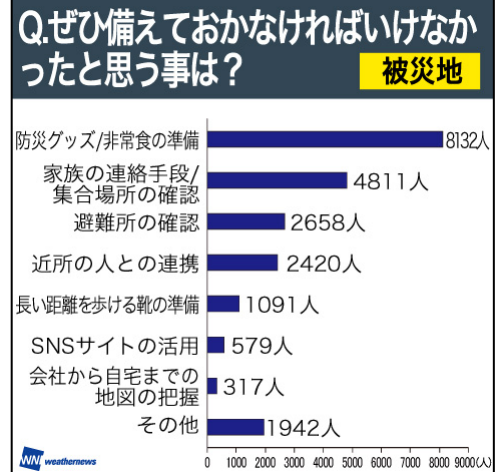
東日本大震災を受けて、「ぜひ備えておかなければいけなかったと思う事は」（複数回答可）との質問をしました。その結果、“防災グッズ/非常食の準備”が最も多く、70,768人、“家族の連絡手段/集合場所の確認”が55,914人、“避難所の確認”が31,879人でした。災害時に備え、日ごろから準備しておく必要があると言われていた基本的な物事ですが、その重要性を多くの方が再認識したようです。



<被災地>

- 被災地でも、日ごろの備えは“防災グッズ／非常食の準備”が最も多い結果に

日ごろの備えておかなければならなかったと思う事で、被災地で最も多かったのは、“防災グッズ／非常食の準備”で8,132人、続いて“家族の連絡手段／集合場所の確認”4,811人、“避難所の確認”が2,658人となり、全国結果と同様の結果になりました。男女別に見てみると、“長い距離を歩ける靴の準備”との回答が女性の方が男性よりも多く、普段ヒールなどを履いている女性で、靴の準備を考えた方が増えたようです。

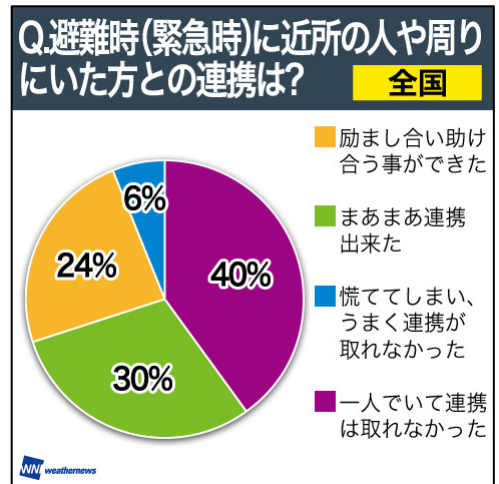


12. 避難時（緊急時）における周辺地域の人との連携への評価

<全国>

- 避難時、全国の半数以上が周辺の人と“連携が取れた”

避難時の周囲との連携について調査するため、「避難時（緊急時）に近所の人や周りにいた方との連携はどうでしたか」との質問をしました。その結果、“一人でいて連携は取れなかった”が40%、“まあまあ連携出来た”が30%、“励まし合い助け合う事が出来た”が24%、“慌ててしまい、うまく連携が取れなかった”が6%でした。“励まし合い助け合う事が出来た”と“まあまあ連携出来た”を合わせると、半数以上の人々が周囲とうまく連携を取りながら避難をしていたことがわかりました。周辺の人との連携が取れ、自らを助ける自助だけでなく、周辺の人と共に助け合う共助が出来ていたことがわかりました。



<被災地>

- 被災地では8割以上が周辺の人と“連携が取れた”

被災地での周辺地域の人との連携について見てみると、“励まし合い助け合う事が出来た”が45%、“まあまあ連携出来た”が38%、“一人でいて連携は取れなかった”が10%、“慌ててしまい、うまく連携が取れなかった”が7%になりました。全国結果と比較してみると、“励まし合い助け合う事が出来た”との回答が圧倒的に多くなり、全国結果の約2倍の回答となりました。“励まし合い助け合う事が出来た”と“まあまあ連携出来た”を合わせると、8割以上の人々が周囲とうまく連携が取れていました。被害が大きいエリアほど、互いに励ましあい、連携を取りながら困難を乗り越えた結果が読み取れます。さらに男女別に見てみると、女性の49%が“励まし合い助け合う事が出来た”と回答しており、男性よりも連携を強化している傾向にありました。

